

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400224
法人名	(有)介護支援サ - ビスしろもと
事業所名	グル - プホ - ム・シオンの家
所在地	上浮穴郡久万高原町上野尻甲 5 3 5
自己評価作成日	平成26年5月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>環境的には四季折々の風景が庭から見える所に位置し、広い庭には縁側、花壇、菜園もあり、利用者や御家族からとても「家庭的」と喜ばれている。一人1人のレベルに応じた普通の生活が送れることを目標にケアを行っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、2年前に現在の場所に移転してこられた。敷地内の小規模多機ホームや、又、同地区には系列グループホームもあって、地域の方からは、「賑やかになっていい」と受け入れてもらっている。散歩していると、近所の方に声をかけてもらうこともよくあるようだ。敷地内に地域交流の拠点としてつくっている「ふれあいホールぶどうの樹」では、これまで、障がい者の絵の展覧会やオカリナ音楽会等が行われており、大勢の方が足を運ばれている。ホールでは、今年4月からカフェをオープンしており、地域の方や面会に来たご家族、テレビで知ったという遠方の方も利用されている。独居の高齢者で、「食事作りが大変だから」と、週1回来られる方もある。昨年は、初めて法人全体で夏祭りをを行い、たこ焼き、そうめん、くじ引き、ゲーム等を行い、子ども達の参加も多かったようだ。地区の夏祭りには、ホーム駐車場を会場として使ってもらえるよう申し出ておられる。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グル - プホ - ム・シオンの家

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

渡部 香保里

評価完了日

平成26年 5月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者は開設当初より勤務しておりホームの理念を充分理解、実践している。当初からの職員もおり、今後さらに経営者・管理者・全職員で同じ方向を向いて取り組み、ケアの質向上を目指していく。 (外部評価) 開設当初より、「やさしい目 やさしい手 主役はお年寄り」という理念をつくっており、玄関前に掲示されている。理念は、毎朝の申し送り時に職員全員で唱和し、月1回のカンファレンス時には、法人代表が、ケアのあり方について話をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的とは云えないが毎月開催される軽トラ市や町の行事、高校の文化祭のバザーや、近所の幼稚園の行事にも声をかけてもらいできるだけ参加して地元の方々との交流に努めている。会社全体で夏祭りを行い地域の方や子供たちも参加して楽しむことができた。 (外部評価) 事業所は、2年前に現在の場所に移転してこられた。敷地内には小規模多機ホームや同地区には系列グループホームもあって、地域の方からは、「賑やかになっていい」と受け入れてもらっている。散歩していると、近所の方に声をかけてもらうこともよくあるようだ。敷地内に地域交流の拠点としてつくっている「ふれあいホールぶどうの樹」では、これまで、障がい者の絵の展覧会やおカリナ音楽会等が行われており、大勢の方が足を運ばれている。ホールでは、今年4月からカフェをオープンしており、地域の方や面会に来たご家族、テレビで知ったという遠方の方も利用されている。独居の高齢者で、「食事作りが大変だから」と、週1回来られる方もある。昨年は、初めて法人全体で夏祭りを行い、たこ焼き、そうめん、くじ引き、ゲーム等を行い、子ども達の参加も多かったようだ。地区の夏祭りには、ホーム駐車場を会場として使ってもらえるよう申し出ておられる。	地域の高齢者からの相談等は、道路に面している小規模多機能ホームが受ける事が多く、事業所へ来られる方は少ないようだ。事業所前は通学路でもあり、今後は、下校時間と利用者の散歩の時間を合わせて、子ども達の「見守り隊」の活動を行いたいと考えておられた。地域の方達が認知症について知ったり、協力し合って暮らせるような地域作りについて地域の実情等も踏まえて、今後も取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人全体で、講師を依頼し関係者や地域の方々を対象にした「看取り」に関する講演会の開催や、職場体験実習生の受け入れを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ホームの近況や利用者・職員の異動等の報告や運営推進会議委員にも敬老会や救急法講習等へ参加して頂き、取り組み状況を見て頂いている。今後、もっといろいろな立場の方に働きかけて出された意見をサービス向上に活かしていく。</p> <p>(外部評価) 同地区にある系列グループホーム・小規模多機能ホームと3事業所合同で会議を行っておられる。時には、敬老会やバーベキュー大会と合わせて行うこともある。5月の会議では、事業所単独で食事会を行い、食事介助の様子等を見ていただいた。町職員からは、「食事介助がこんなに大変だとは思わなかった」という感想があったようだ。ご家族へも案内されるが、参加する方が限られている現状である。</p>	<p>法人代表者は、会議のすすめ方等について、今後どのように取り組んでいくか考えているところである。地域の方が事業所に期待していること等もうかがいながら、地域の実情に沿った議題や活動につなげていかれてほしい。又、参加が難しいご家族にも会議で話合った内容を報告し、意見をうかがってみる等して、利用する側であるご家族の会議参加につなげてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が主催する研修会にできるだけ出席し、勉強させてもらったり情報の共有を図っている。福祉課や包括から運営推進会議には必ず出席して頂いており協力が得られている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、「認知症の方の徘徊をどうするか」話合った際には、町職員が、認知症徘徊模擬体験を実施した際の体験談を話してくださった。さらに、バス停、駅やスーパー、ガソリンスタンド等よく人の出入りがあるところに、利用者情報を伝えておくことが大切であるとアドバイスがあった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権侵害にあたることを職員は認識している。身体や言葉の拘束だけでなく、主治医と相談しながら薬での拘束にも気をつけて取り組んでいる。現在2名の方がミトン型手袋やベッド柵を使用しているが日中はなるべく職員が見守りをして身体拘束廃止に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自分の体をかきむしったり、不潔行為がみられる方があり、ご家族や医師と相談の上、夜間のみミトン型手袋を使用することとなったケースがある。又、夜間ベッドからの転落の危険性が高い方には、ベッド柵を使用していたが、状態が落ち着いてきたこともあり、近々外すことを予定されている。調査訪問時、玄関は網戸にしており、居間から続く縁側から庭へ、自由に出入れるようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  代表者・管理者共に虐待についてははっきりした考え、方針を持っており、身体的・精神的すべての虐待を生じさせないように職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在成年後見制度を利用している方が1名おられる。権利擁護について職員が共に学び、活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入居時には当ホームのケアに関する考え方や取り組みをはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒に渡して不安のないよう十分に理解・納得をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。利用者や家族が、いつでも要望・不満・苦情を表すことができるよう管理者や職員は柔軟な姿勢を持つようにして、当人のその時々思いや希望などを大切に、運営に反映させるように取り組んでいる。  (外部評価)  ご家族へは、毎月、管理者が手紙で利用者の様子を報告しており、又、年4回、「シオンだより」を送付されている。ご家族が、「やさしい介護をありがとう」と、居室にメモを置いてくださっていたことがあり、管理者はたいへん感動された。月2回、受け入れている介護相談員の訪問日と合わせて、ご家族にも来訪いただき、お話できるようセッティングする場合もある。亡くなった利用者のご家族の中には、毎年お盆の帰省時に立ち寄ってくださる方もいる。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスや個人的な意見や提案も検討され、ホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 新人職員には、「利用者体験」する仕組みを作っており、法人代表者は、体験により、ケアの質が目に見えて変わることを感じておられる。訪問調査時には、介助に手助けが欲しいとき、「お願いします」と声を掛け他職員が手伝ったり、職員が居室から顔を出すだけで、他職員が手伝いに行かれるような場面も見られた。併設事業所の職員に雰囲気等について意見を聞くこともでき、「声かけの感じが良かった」等の感想も言ってもらえるようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員アンケートをおこない、左記の事項が実践できるように取り組んでいる。又資格取得を奨励し取得後は資格手当等を含め、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修をはじめすべての職員が、段階に応じた研修(中予ブロック研修)をしてもらっている。常勤・非常勤問わず研修を受けるためのバックアップや自主的に勉強しやすい環境作りに取り組んでいる。主任、管理者リーダー研修や職員全体の接遇研修にも取り組んだ。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者間で職員研修をさせてもらったり、講師をしてもらったりネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。研修会に参加させてもらったり運営推進会議に参加して頂いたりし交流に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況、不安、要望を把握し安心して暮らせるように支援している。また、しばらく慣れるまでは、代表が泊まったり、家族に泊まってもらうなど信頼の構築に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聴き当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と納得が得られるまで、家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人が必要としているものを色々な角度から判断して、適切な支援が受けられるよう、その人に合った必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、家族と共に支える介護を目指し取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望に合わせて墓参り、自宅の訪問、友人に会いに行ったり、1人1人の能力に合わせて馴染みの場所や人との関係がとぎれないように支援している。 (外部評価) 職員と一緒にご自宅に帰り、庭の花を摘んで事業所に戻ったり、その途中に知り合いに会ったり、お若いころ働いていた食堂に立ち寄り、食事をするようなこともある。以前、お饅頭を作って売っていた方は、訪問調査時、慣れた手つきで柏餅を作っておられた。友人が来られた時には、居室で過ごしたり、居間の皆が集まる場所で一緒に過ごされることもある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握し、より良い関わりがもてるよう見守りや声かけを行っている。孤立しがちな方、不仲な方等は職員がうまく交われる場を設定したりしながら利用者同士の関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなったり、長期入院になったりして退所になられても関係を断ち切らないように、必要に応じて相談や支援を行ってきた。毎年花を届けてくれたり、訪問してくれる御家族がいる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で職員が、一人一人の思いの把握に努めている。本人の意向を第一にして、自分で決めることができるような声かけをするよう取り組んでいる。意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握し、希望に添えるよう努めている。 (外部評価) アセスメントは、6ヶ月に1度、更新を行い、状態変化時にはその都度見直しされている。日々の「ケース記録」には、利用者が話したこと等を記入し、その中で思いや意向を探り、センター方式の「私の姿と気持ちシート」や「暮らし方シート」にて情報を蓄積されている。シートの中央に、ご本人の写真を貼っておられた。余命1週間と告げられ、経口摂取は不可能と言われた利用者、「おこよう饅頭」が大好きだったので、どうしても食べさせてあげたいという思いから、お饅頭を潰して口に入れると飲み込み、それをきっかけに少しずつ食べられるようになって、徐々に回復されたケースがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活歴を本人や家族等への聞き取りで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に一人一人の状態(食事、水分、排泄)や会話等、生活状態がわかるように記録している。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、ご家族の意向を伺いながら利用者個々の担当者が立案し職員全員で話し合いケアプランを作成している。状況変化があればその都度見直しを行っている。モニタリングにより、一人一人を把握し見直しを行っている。	
			(外部評価) 介護計画は、6ヶ月ごとに見直しをされている。計画作成時には、利用者、ご家族の意向を聞き、職員全員が意見を出し合い作成されている。日々の介護記録には、介護計画内容に沿った支援には「プ」と記入して支援状況がわかりやすくしており、月1回、全職員が○×方式でモニタリングを行い、計画の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたことも記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内のデイサービスや多機能ホームでのイベントへの参加等、必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に柔軟な対応に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、幼稚園児との交流等できるだけ豊かな暮らしができるよう支援している。社協のボランティア制度も利用をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) それぞれの掛かり付け医に定期的に月1回往診してもらっている。又、随時の受診の支援や24時間態勢で診療して頂ける医院との連携もできている。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居前のかかりつけ医に継続して診てもらえるよう支援されている。利用者の状態によっては、往診を受けたり、病院からの送迎でリハビリに通う方もいる。往診時に合わせてご家族が来られることもある。又、医師から利用者の状態について説明等がある時には、事業所からご家族に連絡をされている。拘縮の改善や、予防のために近くの治療院の訪問マッサージを週1回受けている方もおり、職員ができるマッサージを教えてもらって関節の動きが改善したような利用者もいる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 普段は職場内の看護・介護職員共同で一人一人の体調管理や病状把握に努めており、看護職が不在の時に医療が必要な場合は訪問看護を利用している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 本人・家族が安心して入院生活を送れるよう支援している。又、早期退院に向けて医療機関と話し合い、情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時、及び必要時にターミナルケアに関する指針を文書や口頭で説明し理解を得ると共にその都度話し合いを持ち、柔軟に対応、支援している。医療との連携による数名の看取り経験があり、いずれも自然死を望む御家族からとても感謝されている。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取り支援について説明しており、現在は、ほとんどの利用者やご家族が、「ホームで最期まで過ごす」ことを希望されている。「しんどそう」「食事が食べられなくなった」等の変化時には、改めてご家族と話し合う機会を持たれている。9月に亡くなった利用者の方は、亡くなる2～3日前までポカリゼリーを口にされ、ご家族は、1泊事業所に泊まり、一緒に見て、「大往生です」と感謝の言葉があったようだ。1月に亡くなった方は、皆と過ごすのがお好きな方で、亡くなる前日まで居間でみなと過ごされたようだ。居室でお通夜を行い、出棺時には利用者も一緒にお見送りした。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救命救急講習会を毎年1回行っている。回を追うごとに実践力が身に付いているように思うが、いざと言うときに備え安全安心に向けた取り組みを一層強化していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回消防署の指導の下、避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議ではホームの見取り図と利用者の身体状況を情報提供し、いざというとき駆けつけてもらえるようお願いしている。自治会の有志の皆さんが避難経路や間取りの下見、避難訓練の様子を見ていただいたりした。自動通報装置と火災報知器を行政の補助で設置している。 (外部評価) 1年間に、消防署立ち合いの訓練と、自主訓練を行っており、3月に行った自主訓練時には、夜間の火災を想定して、実際に通報する訓練も行われた。寝たきりの利用者をどう避難させるか、いろいろな方法で試し、結果、布団を使って引っ張ることが一番良いことが分かったようだ。消防署が近くにあり、近所の方は、「何かあったらいつでも来るよ」と言ってくれている。消防署からは、「ローテーション勤務の職場なので、毎朝それぞれの役割を決めておいた方が良い」とアドバイスがあった。備蓄は、水、米、ラーメン、乾パン等、それぞれ2~3日分用意されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 法人の理念である「自由と尊厳」を接遇態度において実施した言葉かけや対応に努めている。新人職員にはまだ理念が十分に浸透していない部分があるので、今後も職員教育に力を入れて取り組んでいきたい。 (外部評価) 「利用者体験」がケアの場面で活かされており、一声かけてから介助する等、「自分だったらどう思うか」と考えながら支援されている。調査訪問時には、法人代表者や職員は、利用者のそばに座って寄り添い、目線を合わせて会話している様子が多く見られた。「シオンだより」への写真の掲載は、ご家族等に了解を得ており、家族が写っている場合にはさらに了解を得るようにしておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めているが、重度化に伴い本人の希望に添えない状況も出てきている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1人1人の好みを優先し行きつけの理・美容院へお連れしたりその人らしいおしゃれができるよう支援している。職員がカットするときにも本人の好みの長さを聞き入れたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備やあとかたづけはその時々利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。一緒に買い物時に希望をきいたり、食事が楽しめるよう努めているが重度化により行えない方が増えてきている。	
			(外部評価) 食材は、畑の野菜を使ったり、天気の良い日は、Aコープに利用者と一緒に買い出しに行ったり、生協の宅配を利用されている。調査訪問時には、ご家族からいただいた鮎が食卓に並んでいた。現在、食事も全介助の方が5名おられ、形態も刻み食が多くなっているが、「見た目にも楽しめる」ように、おいしそうに心がけ、温かいものは温かいうちに食べられるよう支援されている。訪問調査時には、ハート型のきゅうりが添えてあり、食事の話になってきた。お誕生日は、好きなものを特別なお膳に用意しており、利用者はとても喜ばれる。利用者から、「ここはパンが出ないの？」と聞かれたことがあり、すぐにパンを用意して、サンドイッチを作ったり、ミキサー食で食事の方がラーメンが食べたいと希望された際には、食べやすいように麺を小さくして見守りながら支援された。管理者は、「最期まで喫茶店でチーズケーキやプリンを食べられる」等、「好きなものは食べさせてあげたい」と考えておられる。週5日は、調理専門の職員が食事を作り、それ以外の日は職員が作っておられ、調査訪問時には利用者もジャガイモの皮を剥いたり、下膳する様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を把握し、1人1人の状態や習慣に応じた支援ができるよう努めている。食事量が減ってきた利用者さんには、かかりつけ医と相談をして栄養補助食品などで補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で行えない利用者さんは職員が手伝いチェック表に記入し確認している。入れ歯の不具合でいやがる方もあるが、御家族や歯科医と相談しながら対処している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインを見逃さないよう努めている。随時トイレ誘導し、経済的負担も減らせるよう工夫しているが、重度化により年々困難になってきている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	飲食物や運動で薬物に頼らず排便を促したり、水分補給等いろいろ工夫し、自然排便に向けて取り組んでいるが、無理な場合はかかりつけ医と相談しながら下剤の調整を行うなど、支援に努めている。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	1人1人の体調に合わせて入浴している。曜日や回数も特に決まりはなく、快く楽しめる入浴を心がけている。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	個々の体調や希望に合わせて安心して休めるように支援している。リビングで職員と一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして眠くなったら居室に帰る方がいたり、自由にしてもらっている。冬場は湯たんぽを使用し、安眠につなげている。	
			(外部評価)		



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を個別に管理し、全職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤配がないように声に出して服薬確認し、又症状の変化にすぐ気付けるよう観察を怠らないよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のできることを依頼したり、ゲームや、買い物、ドライブ、外食等楽しみごとや気分転換の支援に努めている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、家に帰るなど気晴らしの支援を行っている。月に2回、週刊誌を買いに行くのを楽しみにしている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望で内子や大洲にドライブに行っている。観劇、墓参り、寺参り等行きたいところに出かけられるよう支援している。特に本人の希望のコンサートは念願だった為とても喜んで頂けた。	
			(外部評価) 北島三郎のコンサートに行くために、歩行練習と手を振る練習に励まれ、職員と一緒に外へ出かけて楽しまれた方があり、利用者ご本人はたいへん喜ばれて、その姿を見た職員も感激したようだ。町の商工会議所が主催する軽トラ市に出かけたり、新聞を見て行きたい場所を見つけ、ご家族と高知やしまなみ海道に出かける方もいる。花見は、手作り弁当を持って、全員で行ける近所の集会所で楽しまれた。日常的には近所を散歩したり、車通りの少ない道路を通って近所のお宅の庭先の花を見せてもらうようなこともある。介護度が重度の方も車いすで外に出られるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で支払いできる方はして頂き、個々の状況に応じて、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 当然のこととして対応している。遠方の家族には近況とともに写真を添えて送ったり電話で話したりやりとりできている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭的な雰囲気作りに努めている。リビングの外庭に季節の花を植え縁側で日光浴をしたり、庭でおやつを楽しんだりしている。庭にスズメの餌を置き、毎日食べにくるのを楽しみにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関内外に観葉植物や蘭、アジサイの鉢植えが飾られており、色とりどりの花を咲かせていた。事業所周辺は、田園風景が広がっており、居間から見える畑には、ピーマンやカボチャ、ジャガイモ、ネギを育てておられた。建物内は、木を基調としており、玄関、居間は吹き抜けで天窓から自然の光が入り明るい。居間には、こたつがあり、朝晩冷える時に使用されている。ソファ等で作業が出来るように、持ち運びの出来る一人用テーブルを数台用意しており、テーブルに新聞を広げて読んでいる方も見られた。サイズの違うクッションを用意して、椅子に座った際の足置きに使用されていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室で1人で過ごされたり、リビングで話したりテレビを見たりそれぞれ自由に過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さんの部屋は、利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。ダンス、テレビ、小物など本人の使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。家族写真や日記、位牌を持ってきている方も安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価) 各居室の入り口には、ボランティアの方が作ってくださった暖簾がかけられてあり、クッションがベッド等に置かれていた。背の低い方には高さの低いベッドを用意しており、寝返りが窮屈な方は、畳部屋にダブルの布団を敷いてゆっくり休めるように支援されている。ダンスや洋服掛け、椅子やテレビ、好きな本等を持ち込まれており、ご自宅に帰った際に摘んできたお花を飾っている方もおられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようになってもらっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援するよう努めている。</p>	